諏訪間（すわま） 亮（りょう） さん

大学学部留学／大学院（修士課程）留学（ロシア政府奨学金）

2015年7月
神奈川県立秦野高校　卒業
2015年9月
極東連邦大学　入学　入学準備課程
2016年9月
極東連邦大学　国際関係
2020年7月
極東連邦大学　卒業
2020年9月
国立研究大学高等経済学院　国際関係
【ロシア政府奨学金】

帰国後
卒業後は就職予定

シベリア鉄道の食堂車内にて

ロシア留学を通して得られたもの

最初のきっかけは小学生の頃のフランス旅行

自分が最初に留学を考え始めたのは小学六年生の時に当時姉が留学していたフランスを訪れたことがきっかけだった。その時初めて海外に出て、世界はこんなに広く多様なのだと衝撃を受けた。それがきっかけで自分も世界に出たいと考えるようになった。そして高校に入り自分も姉と同じロータリークラブの青少年交換プログラムに応募し合格。当時は特別ロシアに興味があった訳ではなかったがロシア派遣生に選ばれたのがきっかけでロシア語を勉強し始めた。

高校卒業後ロシアの大学への進学を決意

交換留学前、高校卒業後は日本またはアメリカの大学への留学を考えていたが、留学生活を経てこの国のことをもっと知りたいと思うようになりロシアの現地大学への進学を決意した。当時すでにロシア語での日常会話は問題なく出来ていたが大学でロシア語で授業を受けられるレベルではないと感じ準備課程へ一年行くことに。ロシアは日本の大学よりも学費が安く資金面では困らなかったが情報入手が大変だった。幸い知り合いのロシア人がこの大学の学生でこの知り合いを通して入学手続きをすることができた。

現地の学生と授業を受けるということ

自分の場合ロシアの大学に入学する前に二年間ロシアで暮らしていたためロシア語力は日常生活で困ることはないレベルにはなっていたがそれでも入学当初は現地の学生と一緒に授業を受けるのはかなり苦労があった。当時は他の留学生とともに直接教授に相談して追加の課題をもらいディスカッションについていけない分そこで積極性をアピールするようにしていた。ロシアの大学ではかなり積極性が求められるためどうしてもネイティブの学生と比べると常にハンデがあった。その分今まで以上に色んな面で自発的に行動することができるようになったと思う。授業以外だと寮の生活ではさまざまな国の学生がいたためロシアだけでなくアジアや南米、アメリカやヨーロッパなど世界中の学生との交流を通して世界を知り、さまざまな価値観に触れることができた。

大学のキャンパスの様子

大学院進学

今年の初めにはウラジオストックの大学を卒業後就職も考えたがコロナの影響もあり大学院へ進学することに。知人からロシア政府の奨学金プログラムを紹介してもらい応募。無事合格することができ現在留学中のモスクワにある高等経済学院へ進学した。

ロシア生活を経て得られたもの

自分の中で高校、大学留学を通して得られたことの中で一番大きかったのは視野が広がったことだと思う。大学での授業や現地の生活を通して自分が以前知らなかったことやさまざまな価値観に触れ物事を客観的、論理的に考えることができるようになった。

まずは挑戦してみる

留学前はどこの国に行くにしても不安が大きいと思う。実際、留学生活は授業や日常生活を含め日本と違い苦労することが多いけれど留学生活を通してこれらの苦労以上のものが得られると思う。もしチャンスがあるなら後で後悔しないよう自分のやりたいことに全力で挑戦するべき！

大学国際フェスの開会式の様子

私のロシア語勉強法　「覚えた単語をすぐに使う」

ロシア語や英語に限らずどんな言語を勉強するにも一番大切なことはまずは単語力をつけることだと思う。自分のお勧めな単語学習方法はその日学んだ単語をすぐに会話で使うこと。留学当初は単語をひたすら覚え可能な限りその日の会話で使うようにしていた。インプットとアウトプットを繰り返しすることで断然覚えやすくなるのでこの方法はオススメ。

なかそねしょうしん
仲宗根 掌心 さん

交換留学（トビタテ！留学JAPAN）

2015年3月 沖縄県立八重山高等学校卒業
2015年4月 千葉大学工学部デザイン学科入学
2018年9月～2019年2月
Köln International School of Design（ドイツ）へ交換留学 【トビタテ！留学JAPAN】
2019年2月～2019年7月
Politecnico di Milano（イタリア）へ交換留学【トビタテ！留学JAPAN】
2019年3月 千葉大学工学部デザイン学科卒業
2019年4月 千葉大学大学院融合理工学府 創成工学専攻 デザインコース入学
2021年3月 千葉大学大学院融合理工学府 創成工学専攻 デザインコース卒業

帰国後

千葉大学大学院の修士課程に在籍。モノやサービスのデザイン研究を行なっています。

ケルンでのインタビュー調査

人と人をつなぐモノと体験のデザイン

“なんとなく留学に行きたい”が明確に

大学に入る前からなんとなく“長期海外留学を経験したい”という思いがありました。大学ではデザインを学び、意外にも国際的な環境に刺激され留学を具体的に考えるようになりました。授業では日本へ来た留学生と一緒にグループワークをしたり、海外の協定校とのワークショップに参加しました。一番影響を受けたのはミラノ工科大学の学生とのワークショップで、彼らのデザイナーとしてのレベルの高さに刺激を受け、自分の留学先としてミラノを選ぶきっかけのひとつにもなっています。

モノと経験のデザインを学びに2つの大学へ

ヨーロッパの協定校2校でそれぞれ半年ずつ、計1年間学ぶ大学の交換留学制度を利用し留学しました。学びたいこと・目的の異なる2つの留学先を選びました。前半はドイツ・ケルンにあるKöln International School of Designで体験をデザインするサービスデザイン、後半はイタリア・ミラノにあるミラノ工科大学でモノのデザインをするプロダクトデザインを学ぶことを目的にしました。留学開始の1年前にトビタテ留学JAPAN奨学金への応募・合格、半年前に留学先への手続きなどを行いました。

異なる授業スタイルと苦労した家探し

どちらの学校でも国籍、専門分野の異なるメンバーとチームを組み、意見をぶつけ合いながらプロジェクトを進めました。ケルンでは小さな学校で授業の自由度が高く、教授と相談しながらチームの得意分野を活かせる進め方をしました。ミラノ工科大学は大規模な学校で、授業の課題を要件通りにこなし着実に力を身につけることができますが、自由度は低かったように感じました。日常生活で一番苦労したのは、ケルンでの家探しでした。ケルンは移民の多さによる住宅不足で、理想の予算、契約期間で家を見つけることが難しく、私自身も半年間に予算内で短期契約の家を4回ほど引っ越すことになりました。度重なる引っ越しは大変でしたがローカルな場所を知ることができて良かったです。

ミラノでのグループワーク

チームの力を最大限に引き出す人になりたい

どちらの大学でもプロジェクトにおいて、メンバーとのコミュニケーションに一番苦労しました。個々のバックグラウンドの違いによる考え方の違いを擦り合わせながら、得意分野をどう活かすかを考えることが大変で、以前よりも自分がどうチームに貢献できるかを深く考えるようになりました。

“少し不便”だからこそ豊かな生活

留学先での生活は日本よりも不便なことが多いですが、そこから豊かさを発見することもありました。電子レンジがないから蒸し器でご飯を温めたら美味しかったり、コンビニが無いから家でちゃんとしたご飯を作ったりと、日本に帰ってきてからもあえて“少し不便”なことに豊かさを感じることを意識しています。

〈予定通りに行かない〉を楽しむ

留学は自分が全く知らない環境で生きることなので、予定通りに行かないことは当たり前です。電車が時間通りに来ないなんて当たり前ですし、事前に開館日を調べた美術館に行ってみたら閉まっていたりなど。その“予定通りに行かないをどのように楽しむか”が、留学を充実させる秘訣だと思います。

ミラノでのルームメイト達

私の英語・ドイツ語・イタリア語勉強法

「実際に話しながら言葉を身につける」

語学で一番大事なのはスピーキングであると考えていたので、大学では会話がメインの英語の授業を取るようにしていました。また、海外の協定校とのワークショップに参加したり、大学にある留学生との交流施設に雑談をしに行ったりしました。ドイツ語、イタリア語は留学前に初級レベルの授業を取り、そこで学んだ日常会話のフレーズを使ってイタリア人の友人に話しかけたりして楽しく学びました。

日髙（ひだか）　大樹（だいき）さん

大学院（修士課程）留学
（JASSO 海外留学支援制度（長期派遣））

2008年6月
スイス公文学園高等部卒業
2009年4月～ 2013年3月
明治学院大学国際学部国際学科
2014年9月～ 2016年9月
ジュネーブ国際開発研究大学院
開発学部　学位取得留学

帰国後
2019年10月
開発援助コンサルタント会社に
就職、現在に至る。

卒業証書の授与

国際援助機関が集う ジュネーブへの留学

日本とアフリカの関係を客観的に考察

2013年、横浜で第五回アフリカ会議（TICAD5）が開催され、日本とアフリカ諸国の平和関係を維持する援助と投資の方針が出されました。今後、日本がアフリカの和平とビジネスの協力関係を維持するためには、より相手地域を知り、地域の特色を活かした経済活動が必要と私は考え、両地域の関係について経済、政治、国際援助といった多角面から研究するため留学を希望しました。また、そこには卒業後に日本とアフリカ諸国間での平和構築、経済活動・文化的交流による相互の国益促進をする役割を担いたいという想いがありました。

条件を考えてから大学院を検索

留学先は、1) 開発学を専攻できる、2) 2 年以上のカリキュラムである、3) 日本とアフリカを客観視することができる、4) アフリカ研究を行っている、5) 英語で勉強できる、6) 研究に関する人のネットワークを作れる、7) 自分で賄える学費である、といった 7 点の項目をベースに選択をしました。大学院を探すにあたって、①大学の教授への聞き取りと、②オンライン大学院検索サイトの利用をしました。最終的に第一候補だったスイスの大学院を含む 5 校があがりました。それぞれの大学院の難易度がわからなったので、5 校とも出願しました。

多国籍の町、ジュネーブ

ジュネーブの大学院を留学先に選んでよかったなと思う点は、その多国籍性です。ジュネーブは、国連があることもあり、住民の半分以上が外国籍と言われています。私の大学院でも、8 割以上が留学生で、その国籍は 100 か国以上にものぼりました。そのため、授業では幅広い国際問題にかかる議論ができました。卒業後も多くが世界中の国際機関や国際援助団体に勤めるため、情報交換ができ、このネットワークはとても役立ちます。また、学外では、月に一回、私が主催で鍋パーティーをしていたのですが、毎回 10 か国以上の国籍の友人たちが集まり、それぞれの好きな食材、調味料を足すので日本ベースの多国籍料理になっていました。そんな文化交流がなにより楽しく、一つ一つの会話でより知見が広がりました。

鍋パーティーの様子

国際援助に関する新たな気づきと発見

留学を経て、持続的な途上国援助には、政府や国連主導の援助だけではなく、民間企業の介入が必要不可欠だということを感じました。この気づきから、当初は国連機関や国際援助団体での仕事を考えていましたが、途上国援助を立案・計画・実施する開発コンサルタントという業種に興味を持ち、最初のキャリアにしました。

様々な専門家の方々との身近な交流

高校や大学時代は、国際機関や国際援助団体で働いている人は雲の上の存在で、どのような方が働かれているかなかなか想像がつきませんでした。しかし、今回の大学院留学ではそういった機関で研究・活動をされている様な専門家の方々と身近に交流する機会が多く、将来の仕事のイメージをつけることができました。

街のシンボル

先輩を見つける

ぜひ、志願先に留学経験のある先輩を探してみてください。私自身、留学先の情報があまりなかったのですが、留学先に関して書いている卒業生のブログを見つけ、その情報がとてもためになりました。今は、SNS も発達しているので、留学先の大学・大学院の日本人コミュニティも多くあるため、活用すると良いかと思います。

私の英語勉強法　「苦手意識を取り除こう」

日本人が不得意なスピーキングとリスニングについてアドバイスがあるとするならば、まずは、英語で会話できる友人を作り、苦手意識を取り除くことです。基本会話は中学校完了のレベルの英会話で十分なことがわかり自信がつきます。また、英語独特の言葉の強弱についても自然とわかってくるので、リスニングが強化されます。